

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

全国学力・学習状況調査が開始されて以来、網走市では、市の教育目標である「明日をひらく子どもの育成」のため、市内全校が一丸となって共通・一貫した取組を進めてまいりました。その結果、子どもたちの学力・学習状況が着実に向上しております。

網走市教育委員会では、引き続き「網走市学校教育推進プラン」に基づき、未来を担う子どもたちに必要な資質・能力の育成を目指してまいります。この度、網走市総合学校力向上推進委員会とともに分析を行った市内小・中学校全体の調査結果と、今後のさらなる学力向上に向けた方策をあわせて公表いたします。

1. 調査の概要

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、このような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 実施日 令和7年4月17日（木）

3. 調査の対象・児童生徒数

- 小学校第6学年 9校（網走小、中央小、西小、南小、潮見小、東小、白鳥台小、西が丘小、呼人小）
実施人数 208名
- 中学校第3学年 6校（第一中、第二中、第三中、第四中、第五中、呼人中）
実施人数 国語227名／数学226名／理科227名

4. 調査の内容

- ① 教科に関する調査（小学校：国語、算数、理科／中学校：国語、数学、理科）
 - ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関する内容

※上記を一体的に問う。

※中学校理科は、文部科学省 CBT システムを活用したオンライン方式で実施

- ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

※児童生徒質問紙および学校質問紙は、文部科学省 CBT システムを活用したオンライン方式で実施

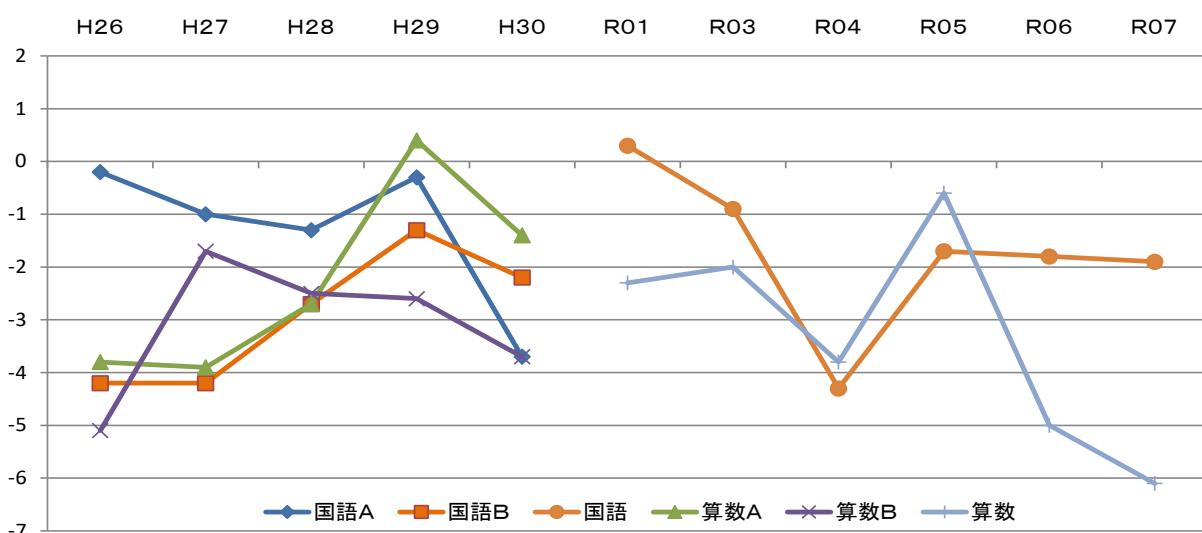
2. 結果の概要

(1) 平均正答率・平均正答数

		小学校			中学校		
教 科		国語	算数	理科	国語	数学	理科
問題数		14 問	16 問	17 問	14 問	15 問	—
平均正答率(ポイント)	網走市	64.9	51.9	55.6	54.3	43.1	501
	北海道	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
	全 国	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503
北海道との差		-0.5	-3.3	-0.7	+0.3	-3.6	-4
全国との差		-1.9	-6.1	-1.5	0	-5.2	-2
平均正答数(問)	網走市	8.8	8.3	9.5	7.7	6.9	—
	北海道	9.2	8.8	9.6	7.6	7.0	—
	全 国	9.4	9.3	9.7	7.6	7.2	—
北海道との差(問)		-0.4	-0.5	-0.1	+0.1	-0.1	—
全国との差(問)		-0.6	-1.0	-0.2	+0.1	-0.3	—

※平均正答率は各教科それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率。中学校理科は平均 IRT スコア。

(2) 網走市《小学校》の平均正答率(全国との比較)の推移

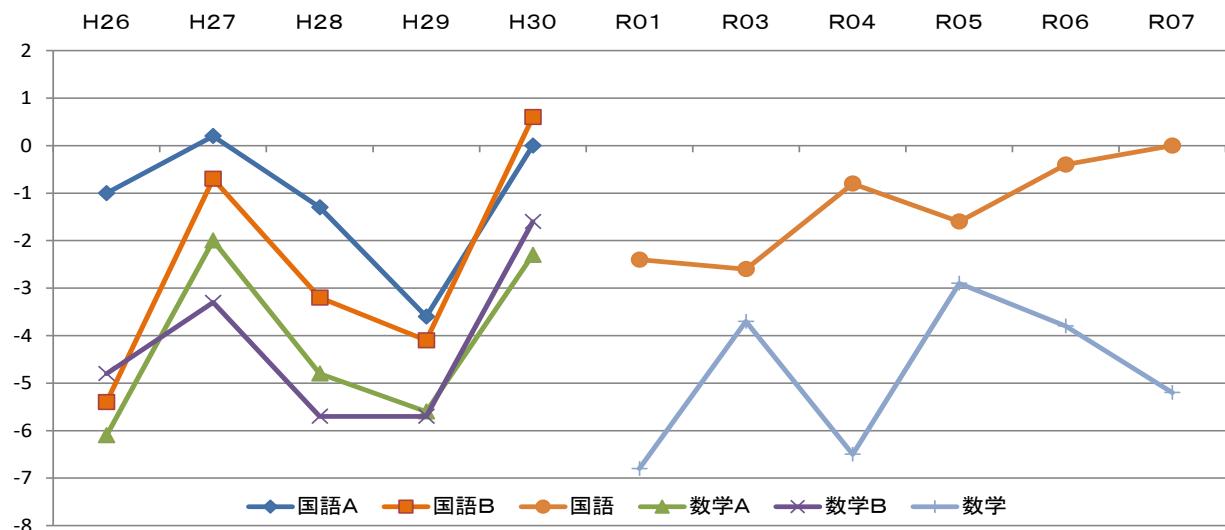


		H26	H27	H28	H29	H30	R01	R03	R04	R05	R06	R07
国語	A	72.7	69.0	71.6	74.5	67.0	64.1	63.8	61.3	65.5	65.9	64.9
	A	-0.2	-1.0	-1.3	-0.3	-3.7						
	B	51.3	61.2	55.1	56.2	52.5	0.3	-0.9	-4.3	-1.7	-1.8	-1.9
	B	-4.2	-4.2	-2.7	-1.3	-2.2						
算数	A	74.3	71.3	74.9	79.0	62.2	64.3	68.2	59.4	61.9	58.4	51.9
	A	-3.8	-3.9	-2.7	0.4	-1.3						
	B	53.3	43.3	44.7	43.3	47.8	-2.3	-2.0	-3.8	-0.6	-5.0	-6.1
	B	-5.1	-1.7	-2.5	-2.6	-3.7						

※国語と算数は、平成31年度(令和元年度)から「知識」と「活用」を一体的に問う問題形式で実施。

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、全国調査は実施されていない。

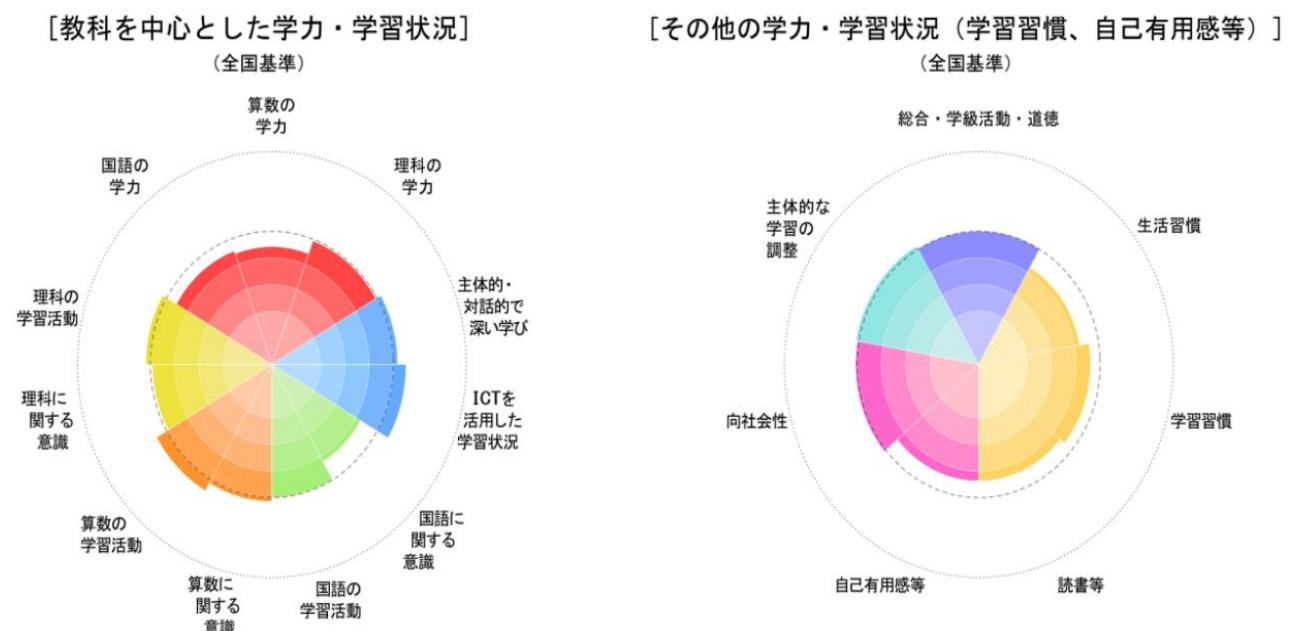
(3) 網走市《中学校》の平均正答率（全国との比較）の推移



		H26	H27	H28	H29	H30	R01	R03	R04	R05	R06	R07
国語	A	78.4	76.0	74.3	73.8	76.1	70.4	62.0	68.2	68.1	57.7	54.3
	B	-1.0	0.2	-1.3	-3.6	0.0						
数学	A	45.6	65.1	63.3	68.1	61.8	-2.4	-2.6	-0.8	-1.6	-0.4	0
	B	-5.4	-0.7	-3.2	-4.1	0.6						
数学	A	61.3	62.4	57.4	59.0	63.8	53.0	53.5	44.9	48.1	48.7	43.1
	B	-6.1	-2.0	-4.8	-5.6	-2.3						
数学	A	55	38.3	38.4	42.4	45.2	-6.8	-3.7	-6.5	-2.9	-3.8	-5.2
	B	-4.8	-3.3	-5.7	-5.7	-1.7						

(4) 「国語、算数・数学、理科、児童・生徒質問紙」調査結果チャート

« 小学校 »



【小学校の調査結果の傾向】

いくつかの領域で全国平均を下回る傾向が見られ、特に児童の学習への意欲や、日々の生活・学習習慣の定着に課題があることが示唆されています。

一方で、全国平均を上回る傾向が見られた領域もあります。特に「ICTを活用した学習状況」や「主体的・対話的で深い学び」「主体的な学習の調整」に関する数値が全国平均を上回ったことは、本市が推進してきた教科指導におけるICTを有効活用した学習活動の充実や、児童の自律的な学習を支援する取組が成果を上げていることを示しています。

【要因】

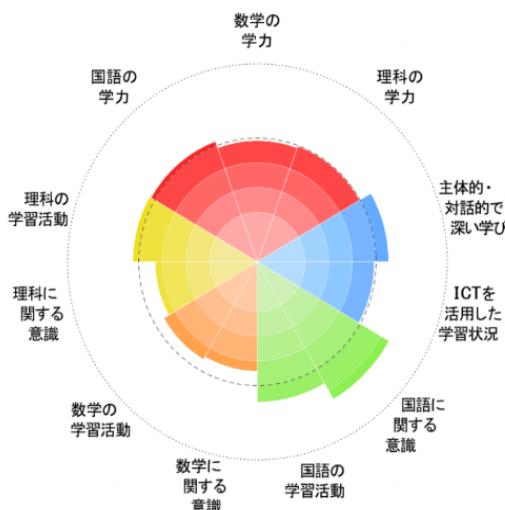
本市の児童は、授業における望ましい学び方は身に付けているものの、それが国語・算数の学力向上に十分につながっていません。その主な要因として、授業以外での学習習慣や日々の生活習慣の数値が全国平均に達していないことが考えられます。特に「読書等」の項目が低いことは、国語の学力に影響を及ぼしている可能性があります。また、「自己有用感等」が低いことは、学習意欲の低下につながり、学力向上を妨げる一因となっていると考えられます。

【今後の取組の方向性】

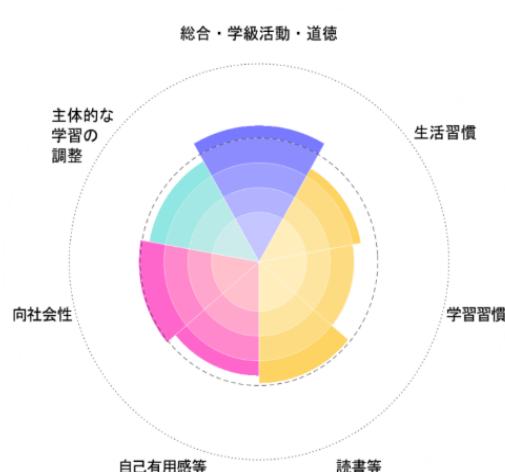
望ましい生活習慣や家庭学習の習慣化を促すための保護者との連携強化、そして児童が自らの成長を実感できるような授業や学習活動の工夫を重視します。それらにより、学力向上と学習意欲の向上を同時に目指していきます。

《 中学校 》

【教科を中心とした学力・学習状況】 (全国基準)



【その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）】 (全国基準)



【中学校の調査結果の傾向】

いくつかの領域で全国平均を下回る傾向が見られ、特に数学や学習習慣の定着に課題があることが示唆されています。

一方で、全国平均を上回る傾向が見られた領域もあります。特に「国語に関する意識」や「国語の学習活動」に関する数値が高く、国語の学力定着にもつながっています。また、「主体的・対話的で深い学び」や「総合・学級活動・道徳」の数値も高く、本市が推進してきた個別最適で協働的な学びの一体的充実や、自ら設定した課題を解決していく生徒の探究的な学習を支援する取組が成果を上げていることを示しています。

【要因】

「数学の学力」が全国平均を下回る主な要因として、「数学に関する意識」や「数学の学習活動」の数値が低いことが影響していると考えられます。また、「学習習慣」や「生活習慣」の数値が全国平均を下回っていることは、全教科の学力に影響を与える可能性がある重要な課題です。

一方で、「国語の学力」や「国語の学習活動」の数値が全国平均を上回っていることは、国語教育に対するこれまでの取組が成果を上げていることを示しています。また、「主体的・対話的で深い学び」や「理科の学習活動」も良好な結果を出していることから、教員による授業改善の取組が、生徒の変容として確実に成果を上げていると考えられます。

【今後の取組の方向性】

生徒が数学を「わかる」「できる」と実感できるような授業改善を進めるとともに、望ましい生活習慣や家庭学習の定着を促すための家庭との連携を強化していきます。それらにより、生徒の自己有用感を高め、学力向上と学習意欲の向上を同時に目指していきます。

3. 教科に関する調査

○小学校 国語

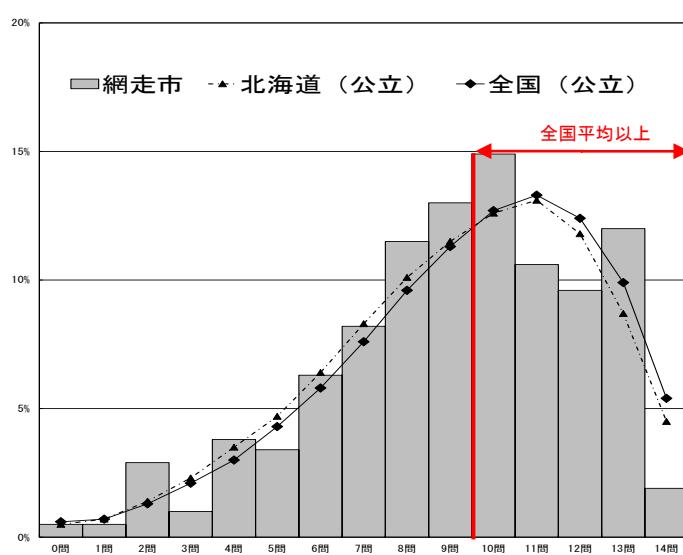
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			網走市	北海道(公立)	全国(公立)
全体		14	64.9	65.4	66.8
学習指導要領の内容	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	71.9	74.8	76.9
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	1	64.4	61.8	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	79.3	80.6	81.2
	A 話すこと・聞くこと	3	65.2	65.0	66.3
	B 書くこと	3	66.3	68.3	69.5
	C 読むこと	4	56.7	56.1	57.5
評価の観点	知識・技能	4	71.9	73.0	74.5
	思考・判断・表現	10	62.2	62.4	63.8
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	9	63.9	63.3	64.7
	短答式	3	73.1	76.8	78.5
	記述式	2	57.5	58.1	58.8

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点	問題形式	正答率(%)			無回答率(%)								
			知識及び技能					思考力、判断力、表現力等											
			(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	(2) 情報の扱い方にに関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	網走市	北海道(公立)	全国(公立)	網走市	北海道(公立)
正答率が高かった問題(上位3問)																			
2四ア	【ちらし】の下線部アを、漢字を使って書き直す (二のみ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6 工					○			○		80.8	81.6	81.6	5.3	7.2	7.2	
3一	【資料1】を読んで思い出した【木村さんの経験】を通して、木村さんが気付いたこととして適切なものを選択する	時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる		5・6 ウ				○			○		79.3	80.6	81.2	0.5	1.0	1.3	
2二	山田さんが手ぬぐいの模様について言葉と図で説明した理由として適切なものを選択する	図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる			5・6 工			○	○				77.4	80.2	81.8	0.5	0.7	0.8	
正答率が低かった問題(下位3問)																			
3三 (1)	【話し合いの様子】の中田さんの発言の空欄Aに当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる				5・6 ウ		○	○				42.3	39.6	40.8	2.9	2.9	3.4	
1一	【話し合いの様子】における小森さんの傍線部の発言を説明したものとして適切なものを選択する	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決めて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる		5・6 ア				○	○				53.8	51.2	53.3	0.0	0.4	0.5	
3三 (2)	【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が納得したこと、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめて書く	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる			5・6 ウ			○					55.3	55.8	56.3	13.5	16.1	16.2	

【小学校国語の概要】

- 正答率の全国平均との差は、-1.9ポイント。
- 正答率が全国平均を上回った問題は14問中5問。
- 無回答率が全国平均を下回った問題は14問中13問。
- 学習指導要領の領域別(6領域から出題)では、全国平均を上回ったのは1領域のみ。
- 問題形式別では、「選択式」「記述式」「短答式」とも全国平均以下。
- 平均正答数が10問(全国平均)以上の割合
全国～53.7%
網走～49.0%

【正答数分布グラフ(横軸:正答数, 縦軸:割合)】



○小学校 算数

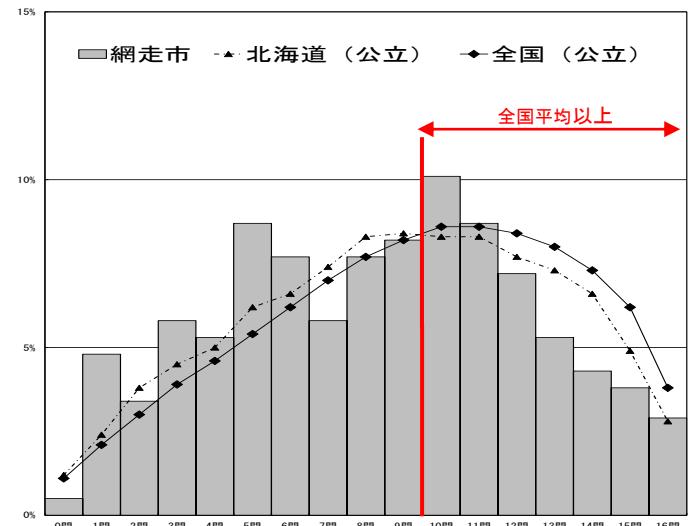
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			網走市	北海道(公立)	全国(公立)
	全体	16	51.9	55.2	58.0
学習指導要領の領域	A 数と計算	8	55.9	58.6	62.3
	B 図形	4	51.0	53.9	56.2
	C 測定	2	46.2	50.7	54.8
	D 変化と関係	3	53.4	55.4	57.5
評価の観点	D データの活用	5	56.1	60.9	62.6
	知識・技能	9	58.9	62.6	65.5
	思考・判断・表現	7	43.0	45.5	48.3
問題形式	主体的に学習に取り組む態度	0			
	選択式	6	62.6	66.4	67.2
	短答式	6	56.5	59.7	64.0
	記述式	4	29.1	31.4	34.9

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点		問題形式		正答率(%)			無回答率(%)					
			A 数と 計算	B 図形	C 測定	D 変化 と 関係	知識 ・ 技 能	思考 ・ 判 断 ・ 表 現	主体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	選 択 式	短 答 式	記 述 式	網 走 市	北 海 道 (公 立)	全 国 (公 立)	網 走 市	北 海 道 (公 立)	全 国 (公 立)	
正答率が高かった問題(上位3問)																			
4 (1)	新品のハンドソープが空になるまでに何ポンプすることができるのか調べるために、必要な事柄を選ぶ	伴って変わら二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができるかどうかをみる	3 (4) 7 (7)		4 (1) 4 (7)	5 (2) 7 (7)		○	○				82.7	82.0	82.8	2.4	2.7	2.6	
3 (4)	1/2 + 1/3 を計算する	異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる	5 (5) 7 (7)					○		○			72.6	73.0	81.3	4.8	5.1	4.1	
2 (3)	角をつくる二つの辺をそれぞれのばした图形の角の大きさについてわかることを選ぶ	角の大きさについて理解しているかどうかをみる	4 (5) 7 (7)					○		○			70.7	76.8	79.3	0.5	1.0	1.0	
正答率が低かった問題(下位3問)																			
3 (2)	3/4 + 2/3について、共通する単位分数と、3/4と2/3が、共通する単位分数の幾つになるかを書く	分数の加法について、共通する単位分数を見いだし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	5 (5) 7 (7)					○					○	22.1	18.6	23.0	19.7	18.1	15.7
1 (2)	都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く	目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる						○					○	24.5	28.8	31.0	0.5	0.8	0.9
3 (3)	数直線上に示された数を分数で書く	数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる	3 (6) 7 (7)					○		○			○	29.3	31.3	35.0	6.7	8.3	7.8

【小学校算数の概要】

- 正答率の全国平均との差は、6.1ポイント。
- 正答率が全国平均を上回った問題は16問中1問。
- 無回答率が全国平均を下回った問題は16問中11問。
- 学習指導要領の領域別(4領域から出題)では、全国平均を上回った領域無し。
- 問題形式別では、「選択式」「記述式」「短答式」とも全国平均以下。
- 平均正答数が10問(全国平均)以上の割合
全国～50.9%
網走～42.3%

【正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)】



○小学校 理科

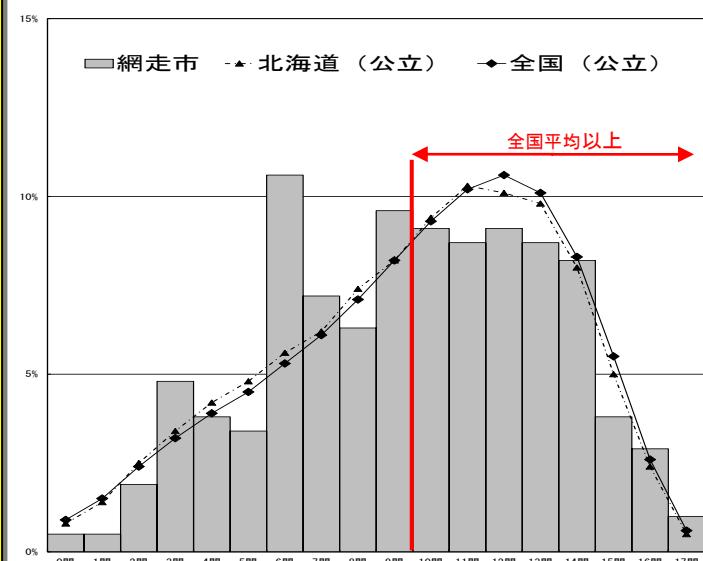
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			網走市	北海道(公立)	全国(公立)
全体		17	55.6	56.3	57.1
学習指導要領の区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	45.1	44.8
		「粒子」を柱とする領域	6	48.7	50.7
	B区分	「生命」を柱とする領域	4	51.7	51.9
		「地球」を柱とする領域	6	65.1	65.9
評価の観点	知識・技能		8	54.0	54.2
	思考・判断・表現		9	56.9	58.2
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式		11	52.7	53.8
	短答式		4	70.3	69.2
	記述式	2	41.8	44.3	45.2

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の区分・領域				評価の観点	問題形式	正答率(%)			無回答率(%)					
			A区分		B区分				網走市	北海道(公立)	全国(公立)	網走市	北海道(公立)	全国(公立)			
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式			
正答率が高かった問題(上位3問)																	
1 (1)	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み時間の違いを調べる実験の条件について、コップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定了した実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる					4D (3)ア (4)※		○		○	80.8	79.9	79.5	0.5	2.2	2.5
2 (3)	ベルをたくたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力について、電磁石の強さ(巻数)によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる	電流がつくる磁力について、電磁石の強さ(巻数)によって変わることの知識が身に付いているかどうかをみる	5A (3)ア (4)				○			○		79.3	75.8	78.0	1.4	2.7	2.7
1 (3)	【結果】や【問題に対するまとめ】から、中くらいの粒の赤玉土に水がしみ込む時間を予想し、予想した理由とともに選ぶ	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、「結果」や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる					4B (3)ア (4)※		○		○	74.5	76.5	77.8	0.0	0.8	0.9
正答率が低かった問題(下位3問)																	
2 (1)	アルミニウム、鉄、銅について、電気を通すか、磁石に引き付けられるか、それぞれの性質に当てはまるものを選ぶ	身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる	3A (3)ア (4)※	3A (3)ア (4)※			○			○		10.6	9.4	10.6	0.5	0.5	0.6
3 (4)	レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気付きを基に、見だした問題について書く	レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる		5B (1)イ			○			○		22.6	29.1	29.9	10.6	11.6	11.4
2 (2)	電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ	電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる	3A (3)ア (4)※				○	○				42.8	42.1	42.9	0.0	0.5	0.6

【小学校理科の概要】

- 正答率の全国平均との差は、
-1.5ポイント。
- 正答率が全国平均を上回った問題
は17問中8問。
- 無回答率が全国平均を下回った問題
は17問中17問全て。
- 学習指導要領の領域別(4領域から出題)では、全国平均を上回った領域無し。
- 問題形式別では、「短答式」で全国平均を上回り、「選択式」「記述式」で全国平均を下回っている。
- 平均正答数が10問(全国平均)以上
の割合
全国～57.2%
網走～51.5%

【正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)】



○中学校 国語

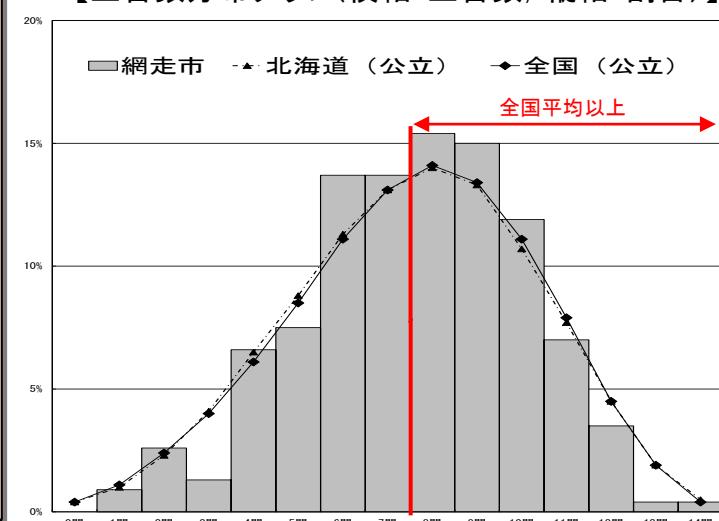
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			網走市	北海道(公立)	全国(公立)
全体		14	54.3	54.0	54.3
学習指導要領の内容	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	50.7	48.8	48.1
	(2) 情報の扱い方に関する事項	0			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	A 話すこと・聞くこと	4	55.1	53.8	53.2
	B 書くこと	5	50.9	51.4	52.8
	C 読むこと	3	61.4	62.0	62.3
評価の観点	知識・技能	2	50.7	48.8	48.1
	思考・判断・表現	12	54.9	54.8	55.3
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	8	66.1	64.0	63.9
	短答式	2	73.6	72.9	73.6
	記述式	4	21.0	24.3	25.3

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点	問題形式	正答率(%)			無回答率(%)			
			知識及び技能		思考力、判断力、表現力等			網走市	北海道(公立)	全国(公立)	網走市	北海道(公立)	全国(公立)	
			(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	(2) 情報の扱い方に関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	網走市	北海道(公立)	全国(公立)
正答率が高かった問題(上位3問)														
3二	「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く	文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる				2ア	○	○	93.0	90.5	89.9	1.3	4.0	4.0
1二	ちらしに「会場図」を加えた目的を説明したものをして適切なものを選択する	目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる			1ア	○	○		81.9	80.5	82.5	0.0	0.1	0.2
2二	聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発した理由を説明したものをして適切なものを選択する	相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる		1ウ		○	○		80.2	77.4	77.9	0.0	0.3	0.3
正答率が低かった問題(下位3問)														
3四	「一 横木の実」に書かれている場面が、「二 鈎の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそのように考えた理由を書く	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えができるかどうかをみる			1エ	○		○	11.5	16.3	17.1	34.8	30.8	28.1
2四	発表のまとめの内容をより分かりやすく伝えるためのスライドの工夫について、どのような助言をするか、自分の考えを書く	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる		2ウ		○		○	20.3	22.7	23.2	4.8	4.9	4.0
4二	手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見付けて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く	読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる		1エ	○		○	○	22.0	28.4	30.1	21.6	20.9	19.1

【中学校国語の概要】

- 正答率の全国平均との差は±0.0ポイント。
- 正答率が全国平均を上回った問題は14問中6問。
- 無回答率が全国平均を下回った問題は14問中8問。
- 学習指導要領の領域別(4領域から出題)では、2領域で全国平均を上回っている。
- 問題形式別では、「選択式」「短答式」で全国平均を上回り、「記述式」で全国平均を下回っている。
- 平均正答数が8問(全国平均)以上の割合
全国 ~ 53.3%
網走 ~ 53.6%

【正答数分布グラフ(横軸:正答数, 縦軸:割合)】



○中学校 数学

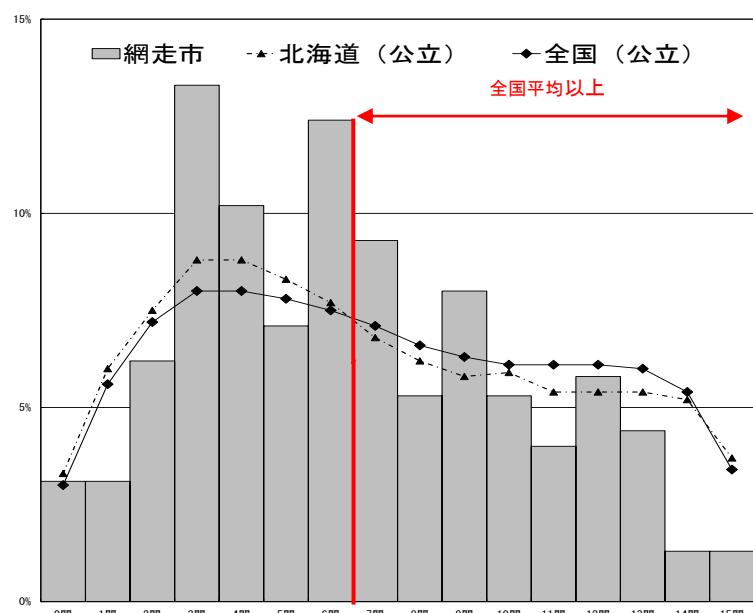
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			網走市	北海道(公立)	全国(公立)
全体		15	43.1	46.7	48.3
学習指導要領の領域	A 数と式	5	39.7	43.4	43.5
	B 図形	4	41.2	44.9	46.5
	C 関数	3	42.3	46.6	48.2
	D データの活用	3	52.2	54.8	58.6
評価の観点	知識・技能	9	51.5	53.6	54.4
	思考・判断・表現	6	30.6	36.4	39.1
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	3	60.3	56.1	54.0
	短答式	7	44.9	49.9	52.0
	記述式	5	30.4	36.7	39.6

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)			無回答率(%)		
			A 数 と 式	B 図 形	C 関 数	D デ タ の 活 用	知識 ・ 技 能	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	選 択 式	短 答 式	記 述 式	網 走 市	北 海 道 (公 立)	全 国 (公 立)	網 走 市	北 海 道 (公 立)	全 国 (公 立)
正答率が高かった問題(上位3問)																		
7 (1)	Aの手元のカードが3枚とも「グー」、Bの手元のカードが3枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの1回目を行うとき、1回目にAが勝つ確率を書く	必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかをみる					2(2) (7)	○			○		75.2	76.1	77.4	4.4	3.9	3.2
8 (1)	A駅からの走行距離と運賃の関係を表すグラフの何を読み取ればC駅とD駅の間の走行距離が分かるかを選ぶ	事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる		1(1) (7)			○			○			68.6	70.5	71.9	3.1	2.4	2.3
9 (1)	四角形A E C Fが平行四辺形であることの証明を振り返り、新たに分かることを選ぶ	証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かることや角についての関係を見いだすことができるかどうかをみる	2(2) (7)				○			○			58.0	57.1	58.5	0.4	1.2	1.1
正答率が低かった問題(下位3問)																		
6 (2)	3nと3n+3の和を2(3n+1)+1と表した式から、連続する二つの3の倍数の和がどんな数であるかを説明する	式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見いだし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	2(1) (7)				○			○			19.9	25.1	25.7	30.1	27.8	24.9
9 (3)	平行四辺形A B C Dの辺B C、D Aを延長した直線上にB E = D Fとなる点E、Fを取り、辺A Bと線分F Cの交点をG、辺D Cと線分E Fの交点をHとしたとき、四角形A G C Hが平行四辺形になることを証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる	2(2) (7)				○			○			21.2	30.1	33.2	41.2	34.8	31.5
4	一次関数y = 6x + 5について、xの増加量が2のときのyの増加量を求める	一次関数y = a x + bについて、変化的割合を基に、xの増加量に対するyの増加量を求めることができるかどうかをみる	2(1) (7)	○			○			○			27.0	33.1	34.7	8.0	9.7	8.0

【中学校数学の概要】

- 正答率の全国平均との差は、-5.2ポイント。
- 正答率が全国平均を上回った問題は15問中1問。
- 無回答率が全国平均を下回った問題は15問中4問。
- 学習指導要領の領域別(4領域から出題)では、全領域で全国平均を下回っている。
- 問題形式別では、「選択式」で全国平均を上回り、「短答式」「記述式」で全国平均を下回っている。
- 平均正答数が7問(全国平均)以上の割合
全国～47.0%
網走～44.7%

【正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)】



○中学校 理科

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域		評価の観点		問題形式		正答率(%)		無解答率(%)		問題の難易度					
			「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地図・図表」を柱とする領域	知識・技能	思考・判断・表現	選択式	短答式	記述式	網走市	北海道(公立)	全国(公立)				
1 (1)	電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列で回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する	電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗と熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(3) (7) (7)				○		○			46.3	52.1	51.9	0.0	0.2	0.2	5
1 (2)	「理科の実験では、なぜ水道水ではなく精製水を使うのかな?」という疑問を解決するための問題を記述する	身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかをみる		(2) (7) (7)			○		○			47.6	52.0	46.2	5.7	6.8	8.0	5
1 (3)	地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を選択し、その場所を選択する	地層の位置から水が染み出る場所を観察する場面において、小学校で習った知識を元に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解説できるかどうかをみる			(2) (7) (7)		○		○			32.2	36.0	36.2	0.9	0.5	0.6	5
1 (4)	生物1から生物4までの動画を見て、呼吸を行う生物をすべて選択する	水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生息を維持する動作に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる		(3) (7) (7)			○		○			18.9	29.5	29.7	0.0	0.1	0.2	5
1 (5)	塩素の元素記号を記述する	塩素の元素記号を用いて、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(4) (7) (7)				○		○			50.7	46.4	44.9	5.3	7.9	8.5	4
1 (6)	水道水と精製水に関する2人の発表を見て、探究の過程におけるあなたの振り返りを記述する	科学的な探究を通してまとめたものを他の者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる	(2) (7) (7)				○		○			81.1	79.3	79.4	8.4	10.3	9.9	3
2 (1)	【考察】をより確かなものにするために必要な実験を記述し、予想される実験の結果を記述する	【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を行し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる	(1) (7) (7)				○		○			0.0	15.3	14.0	0.0	2.1	1.9	5
2 (2)	【Webページの情報だけを信頼して考察してよいか】について判断し、その理由として適切なものすべてを選択する	スローコード太さと高さに関する情報を収集してまとめて行う学習活動の場面で、収集する資源や情報の信頼性についての知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(1) (7) (7)				○		○			90.0	94.9	94.6	0.0	0.2	0.1	2
3 (1)	設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する	仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができるかどうかをみる	(3) (7) (7)				○		○			15.3	32.9	34.9	0.0	0.2	0.2	5
3 (2)	抵抗に関する知識を手掛かりに、身近な電気回路に抵抗がついている理由を選択する	身近な電化製品の電気回路について探究する学習場面において、回路に抵抗がついている理由を聞くことで、抵抗に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(3) (7) (7)				○		○			81.4	85.7	85.2	0.0	0.1	0.1	2
4 (1)	プロパンガスと都市ガスでシャボン玉を作ったときの様子から、プロパンガス、都市ガス、空気の密度の大小を判断し、小ささ順に並べる	ガス警報器の設置場所が異なる場合の知識を考る学習場面において、実際の様子と、密度に関する知識および技能を関連付けて、それらの気体の密度の大小関係を分析して解説できるかどうかをみる	(2) (7) (7)				○		○			45.4	52.8	50.4	0.0	0.1	0.1	4
4 (2)	「一酸化炭素は空気より軽い」という性質を基に、適切な避難行動を選択する	火災における適切な避難行動を聞くことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(2) (7) (7)				○		○			92.8	93.6	92.8	0.0	0.1	0.1	2
5 (1)	加熱を行う実験において、火薬をしたときの適切な応急措置を選択する	加熱を行う実験における実験器具の操作等に関する技能が身に付いているかどうかを見る	(2) (7) (7)				○		○			90.2	94.1	93.0	0.0	0.1	0.1	1
5 (2)	実験の言葉と実験結果の反映から、どのような化学変化が起きているか判断し、原子や分子のモルを移動させるとして、その化学変化をモデルで表す	化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解説できるかどうかを見る	(4) (7) (7)				○		○			45.1	35.0	35.6	2.0	4.6	4.6	4
6 (1)	牧野富太郎の「ジギクリ」のスケッチから分かることを記述し、その技能について、適切なものを選択する	スケッチから分かることを聞くことで、スケッチに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる	(1) (7) (7)				○		○			66.1	65.0	65.9	0.0	0.2	0.2	4
6 (2)	牧野富太郎の「サクユリ」のスケッチから、サクユリ【茎の横断面】、【根】として適切なものを選択し、選択する	スケッチから分かることを聞くことで、植物の葉、茎、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現できるかどうかをみる	(3) (4) (7)				○		○			30.5	39.5	41.9	0.0	0.1	0.1	4
7 (1)	小腸の柔軟性、肺の肺胞、根毛に共通する構造と同じ構造をもつものとして適切な事象を判断し、選択する	小腸の柔軟性、肺の肺胞、根毛に共通する構造について学習する場面において、肺の柔軟性と多様性の見方をつかせながら比較し、統合的に分析して解説ができるかどうかをみる	(3) (7) (7)				○		○			23.7	34.1	34.8	0.0	0.2	0.2	5
7 (2)	消化によってデンプンがブドウ糖に分解されること、同じ化学変化であるものを選択する	分解に関する身近な事象を聞くことで、これまでに学習した理科の知識及び技能を基に、化学変化の分類の知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(4) (7) (7)				○		○			45.4	53.2	51.6	0.0	0.2	0.2	5
8 (1)	大地の変化に関する言ひ伝えを1つ選択し、その選択した言ひ伝えが科学的に正しいと判断した理由を「地層を読べたときに何が分かればよいか」に差しめて記述する	大地の変化について科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推測できるかどうかをみる	(2) (4) (7)				○		○			33.3	39.0	42.2	2.0	3.1	3.2	4
8 (2)	Aさんの考案を肯定するためにはボーリング地層③の結果を読み、Aさんの【振り返り】を読み、Aさんの【予想】を判断し、選択する	大地について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、探究の過程の見通しについて分析して解説できるかどうかをみる	(2) (4) (7)				○		○			25.5	18.6	18.1	0.0	0.9	1.1	5
9 (1)	【予想】から学習した内容が反映されたAさんの【振り返り】を読み、Aさんの【予想】を判断し、選択する	気圧について科学的に探究する場面において、状態変化や圧力に関する知識及び技能を基に、予想が反映された振り返りについて問うことで、気圧の知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(4) (7) (7)				○		○			25.0	32.0	31.8	0.0	0.3	0.3	5
9 (2)	クリーンルームのほかに気圧を利用して身近な事象を選択する	気圧に関する身近な事象を聞くことで、気圧の知識が概念として身に付いているかどうかをみる	(4) (7) (7)				○		○			35.0	57.1	58.1	0.0	0.2	0.3	4

【中学校理科の概要】

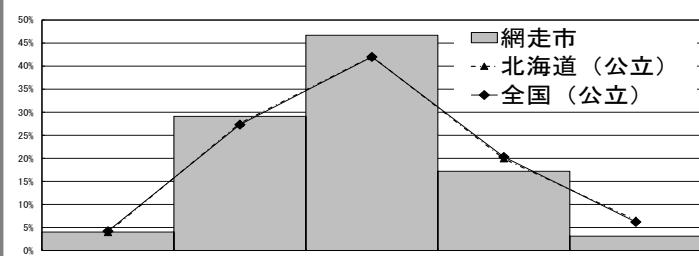
○IRTスコアの全国平均との差は、

ー2ポイント。

○正答率が全国平均を上回った公開問題は7問。

○IRTバンド3以上の割合
全国～68.5%
網走～67.0%

【IRTバンド分布グラフ(横軸:IRTバンド、縦軸:割合)】



【問題の構成】

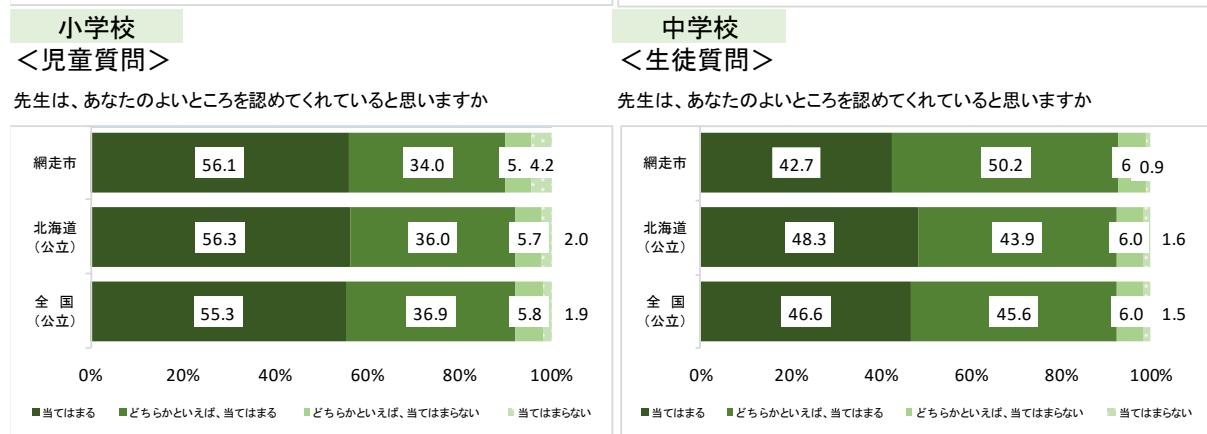
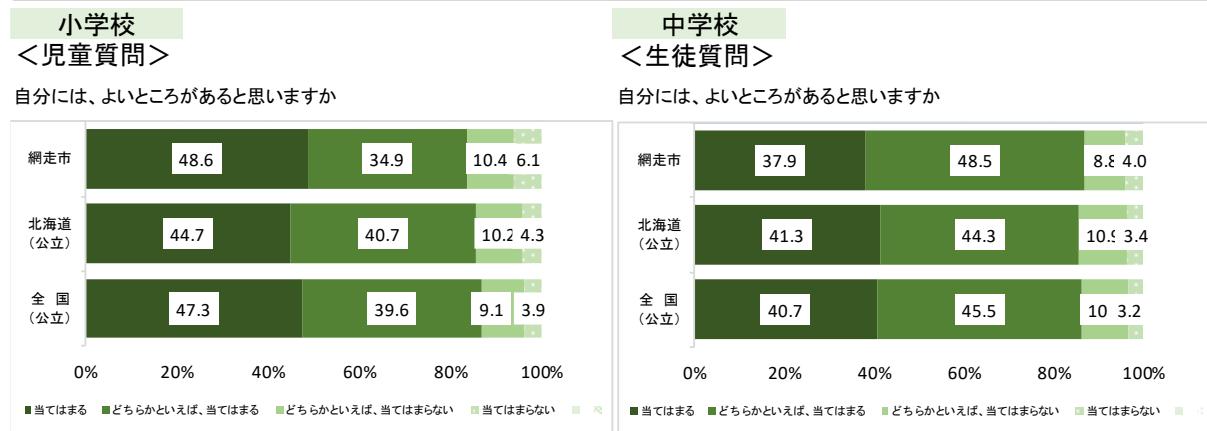
- 生徒1人当たり、公開問題10問と非公開問題16問を出題。
- 公開問題には全日程に共通する問題(6問)と実施日別の問題(4問)がある。
- 非公開問題は幅広い内容・難易度等から出題され、生徒ごとに異なる問題を解いている。

【IRTスコア・IRTバンド】

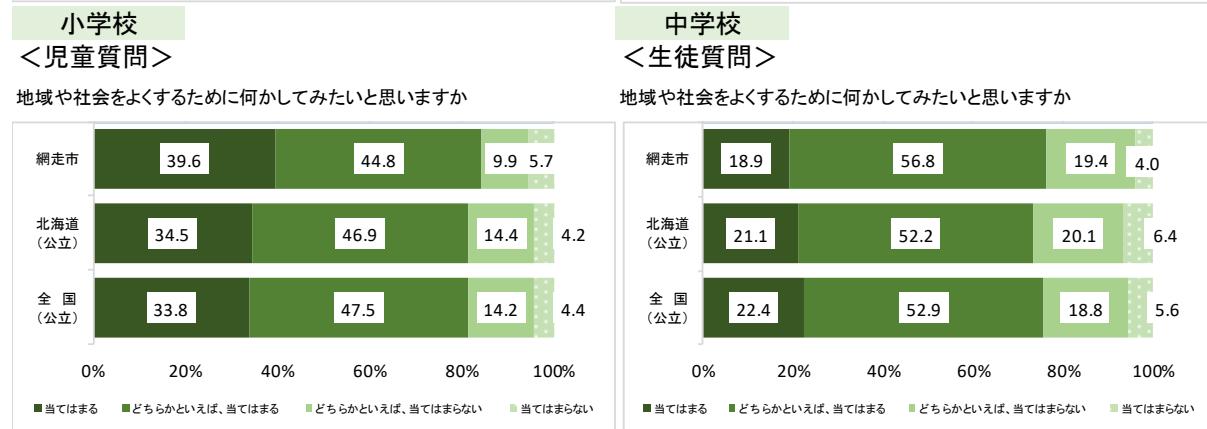
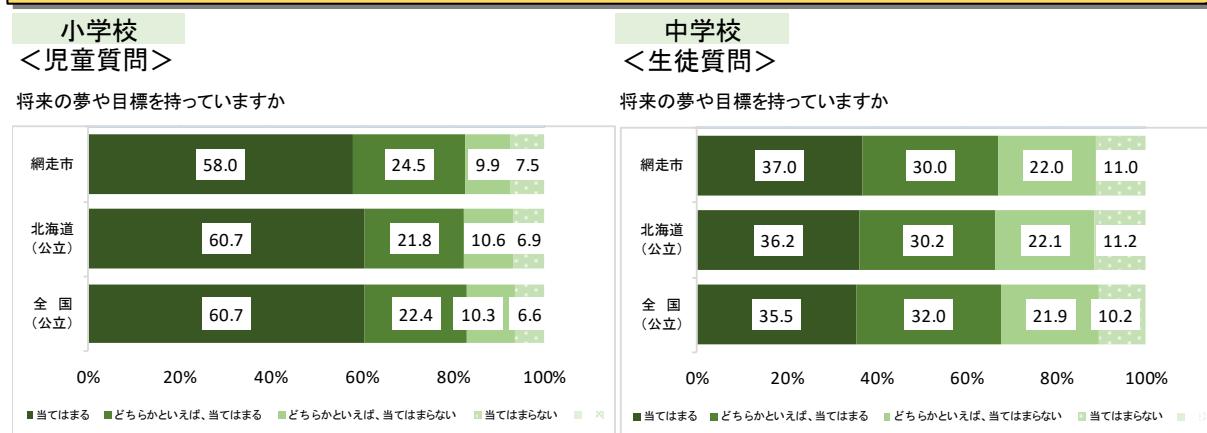
- IRTスコアは、IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。
- IRTバンドは、IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものであり、3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなる。
- IRTスコア・IRTバンドは、難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出される。

4. 児童生徒質問紙調査（ウェルビーイングの向上に関する項目）

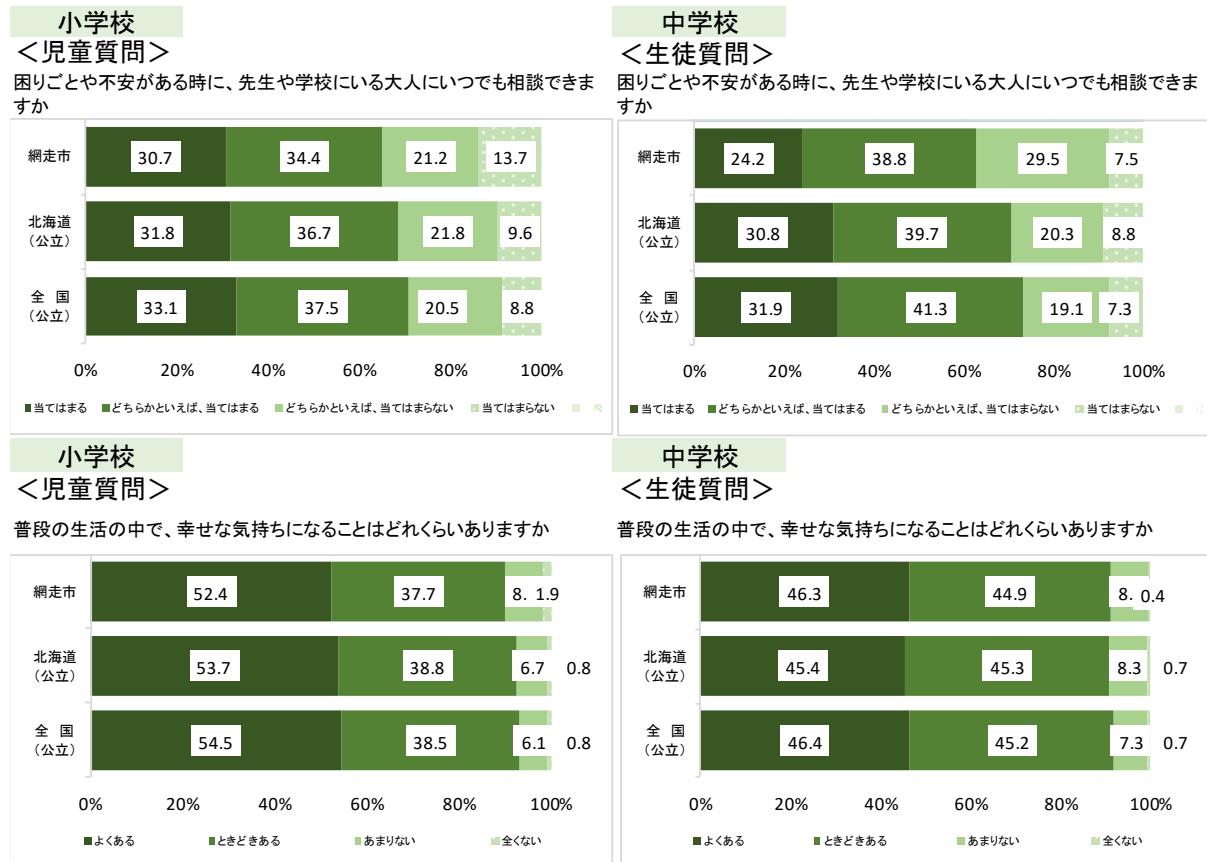
「自分にはよいところがある」「先生はよいところを認めてくれる」に関する肯定的回答（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」※以下の項目でも同様）は、いずれも小学校では全国より低いが、中学校では全国より高い。



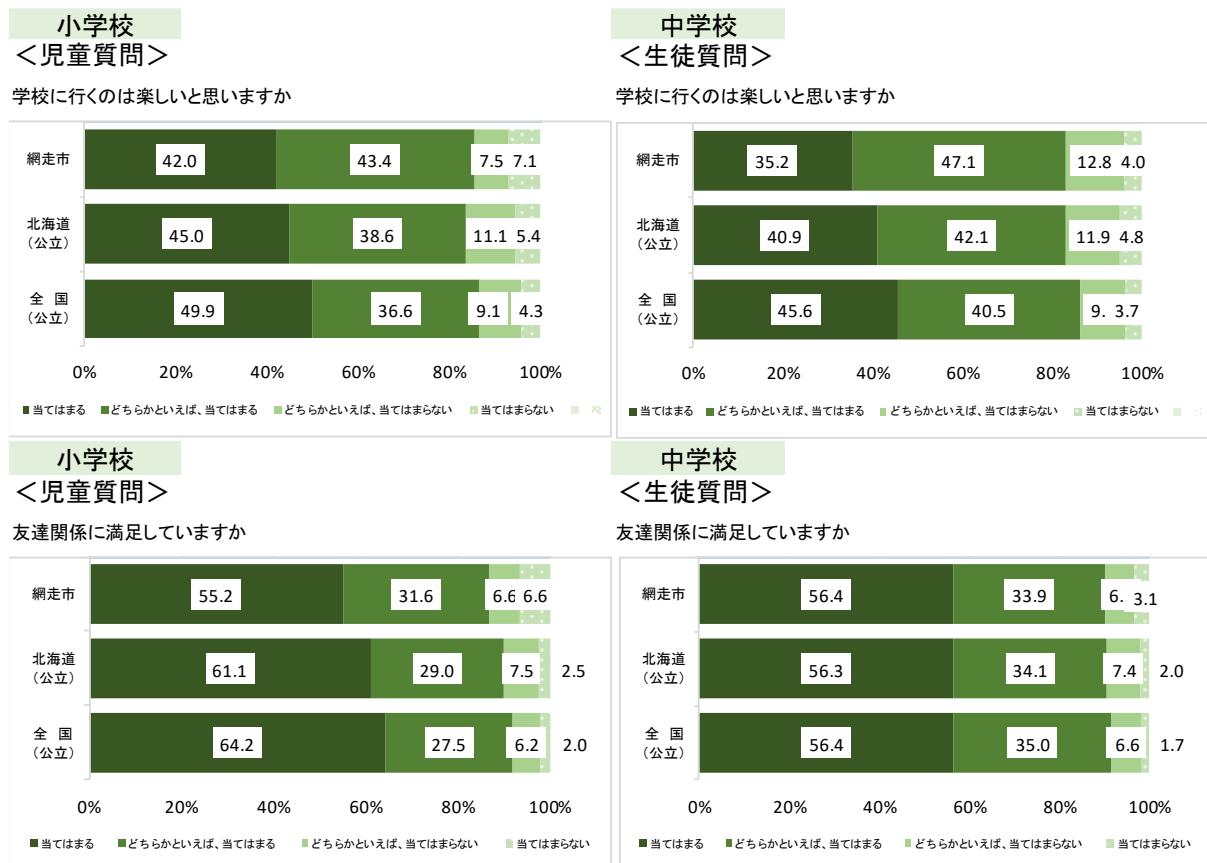
「将来の夢や目標を持っている」「地域や社会をよくするために何かをしたい」の肯定的回答は、いずれも小中学校において全国と同等もしくは高い。



「先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」の肯定的回答回答が小中学校において明らかに全国より低く、「幸せな気持ちになる」の肯定的回答回答も、小中学校において全国より低い。



「学校に行くのは楽しい」「友達関係に満足している」の肯定的回答回答が、いずれも小中学校において全国より低い。



「自分と違う意見について考える」の肯定的回答は、小中学校において全国より低いが、「学級会」に関する肯定的回答は、中学校において全国より高い。

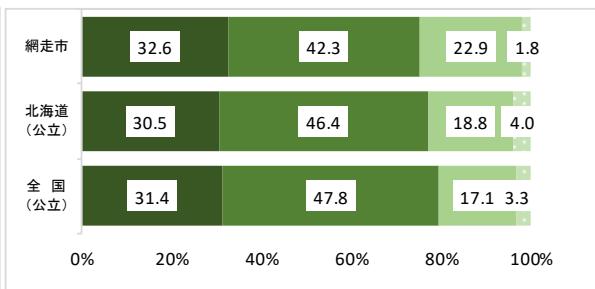
小学校 <児童質問>

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



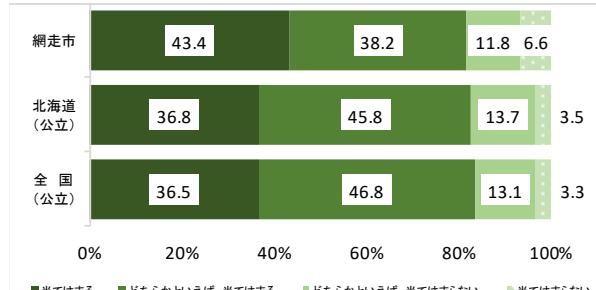
中学校 <生徒質問>

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



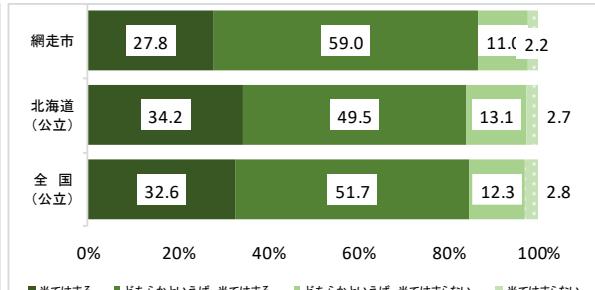
小学校 <児童質問>

あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



中学校 <生徒質問>

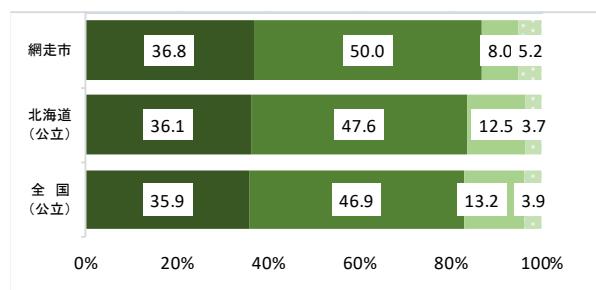
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか



「国語の授業がよく分かる」の肯定的回答は、小中学校において明らかに全国より高いが、「算数・数学の授業がよく分かる」の肯定的回答は、小学校において全国より高く、中学校において全国より低い。

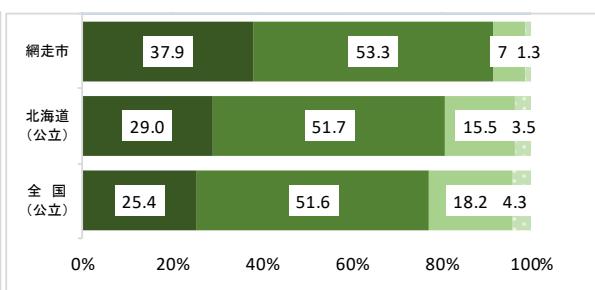
小学校 <児童質問>

国語の授業の内容はよく分かりますか



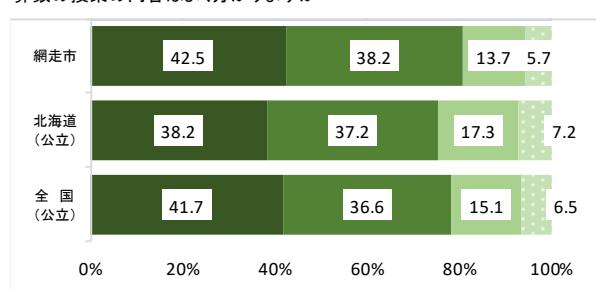
中学校 <生徒質問>

国語の授業の内容はよく分かりますか



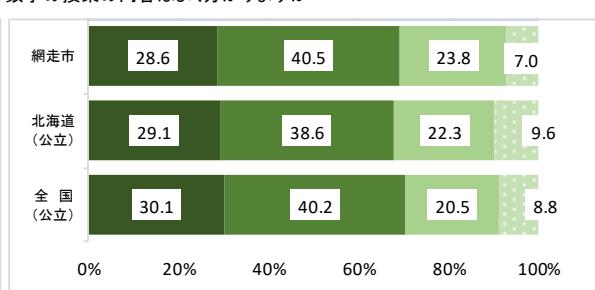
小学校 <児童質問>

算数の授業の内容はよく分かりますか



中学校 <生徒質問>

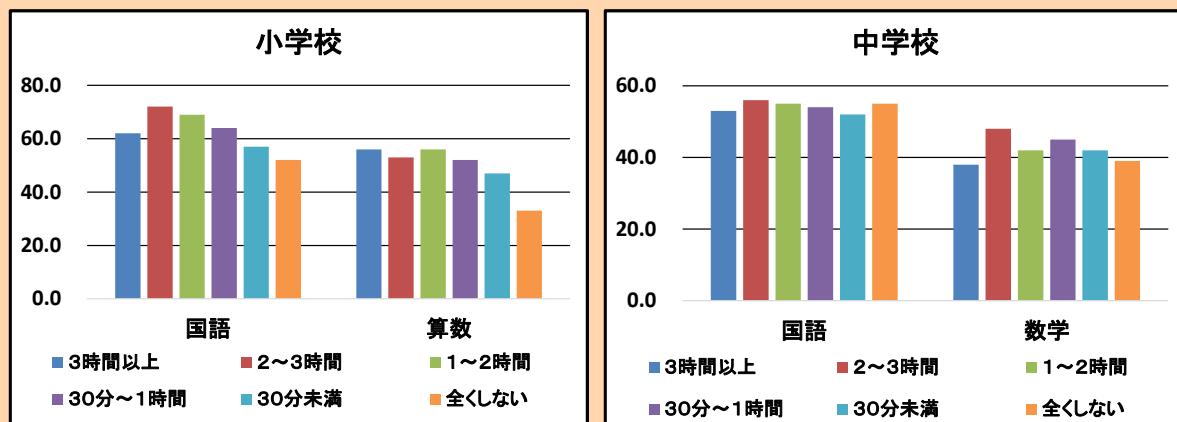
数学の授業の内容はよく分かりますか



5. 質問紙調査と平均正答率の相関

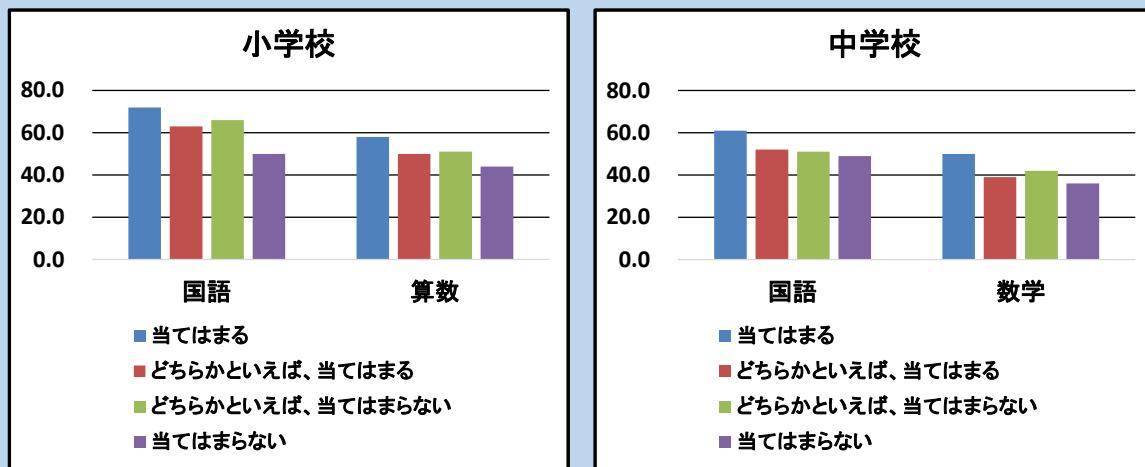
(1) 「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」と正答率の相関

「1～3時間以上」と回答した児童生徒は、「1時間未満～全くしない」と回答した児童生徒児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



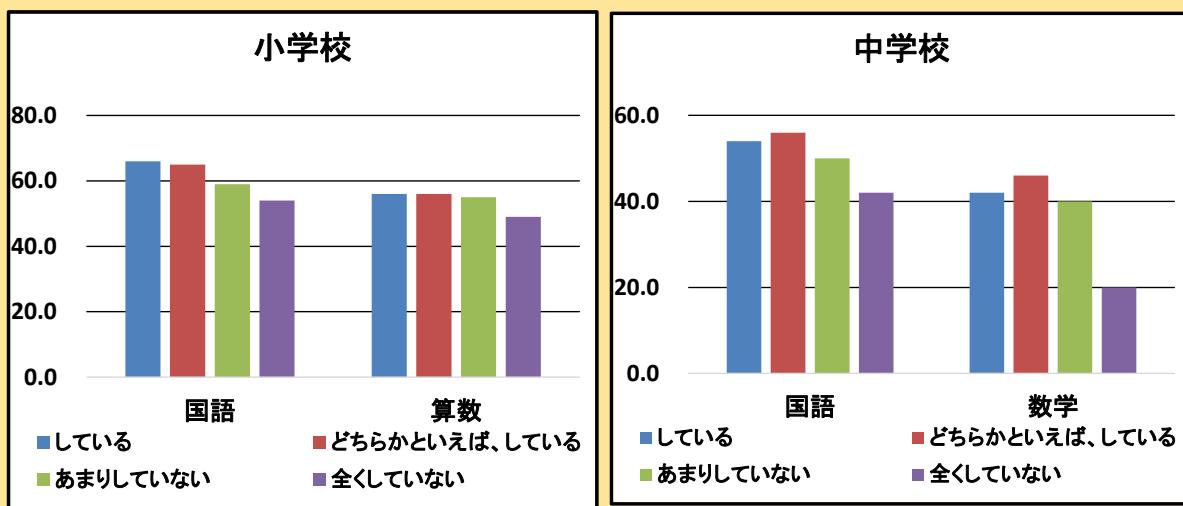
(2) 「読書は好きですか」と正答率の相関

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒は、「どちらかといえばあてはまらない」「当てはまらない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



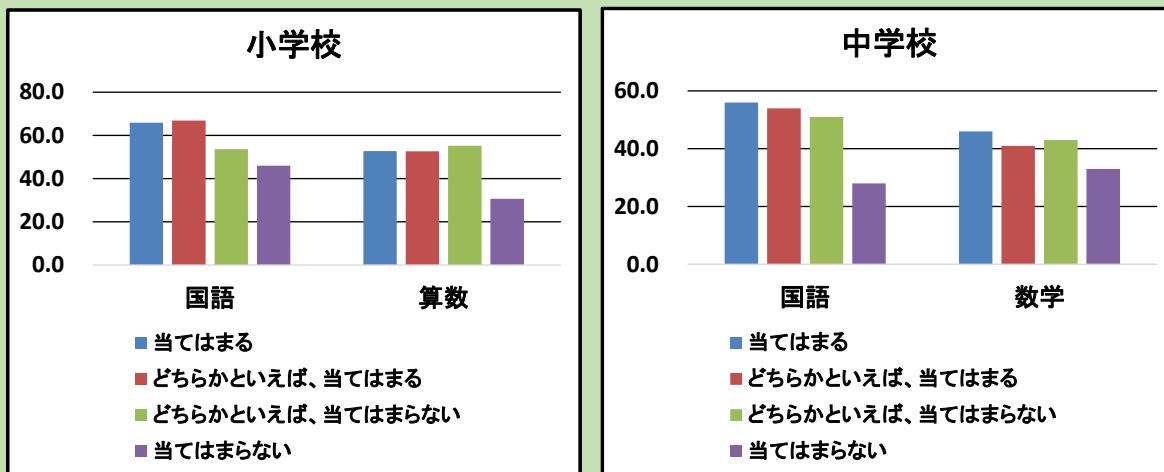
(3) 「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」と正答率の相関

「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の方が「あまりしていない」「まったくしていない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



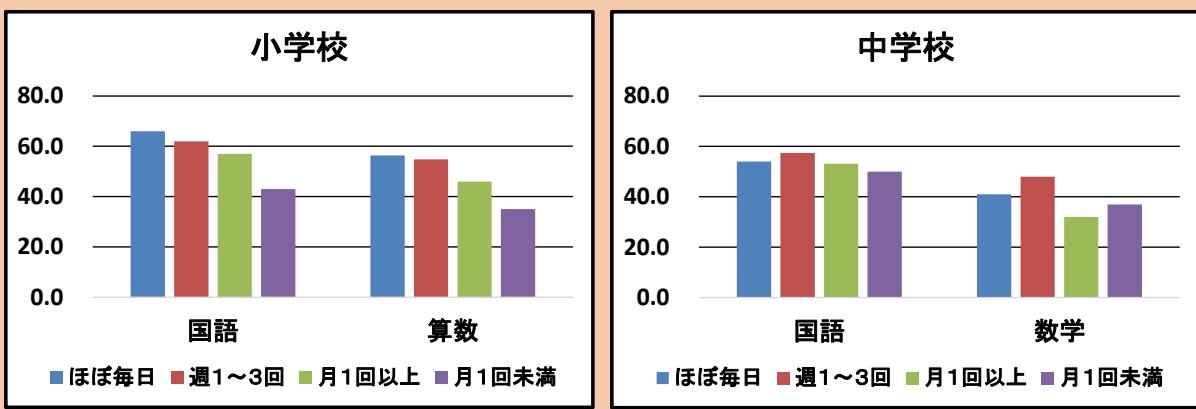
(4) 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」と正答率の相関

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒は、「どちらかといえばあてはまらない」「当てはまらない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



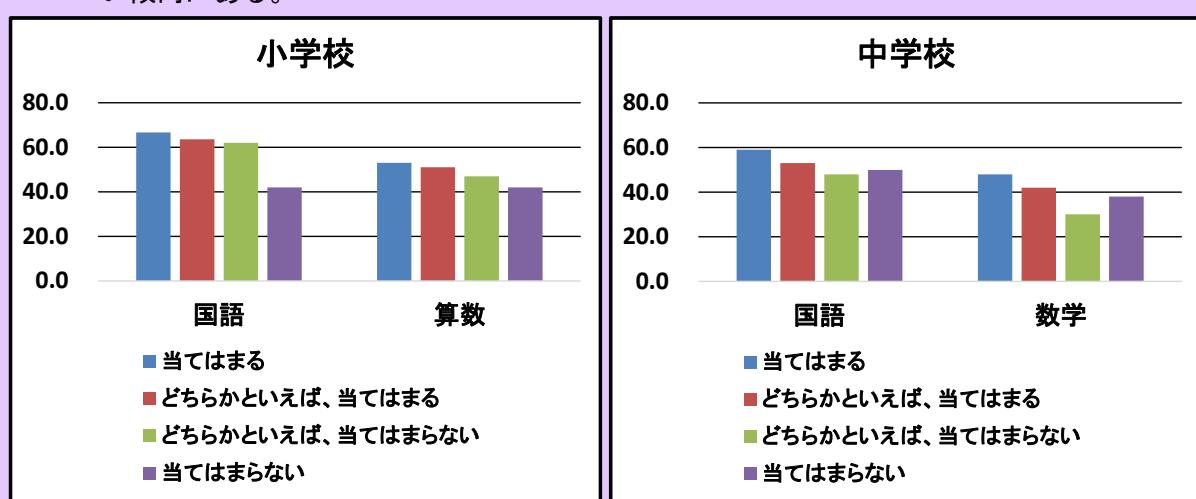
(5) 「授業で ICT 機器を使用している」と正答率の相関

「ほぼ毎日」「週 1~3 回」と回答した児童生徒の方が「月 1 回以上」「月 1 回未満」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



(5) 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方には気付いたりすることができますか」と正答率の相関

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒は、「どちらかといえばあてはまらない」「当てはまらない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高い傾向にある。



7. 質問紙調査において全国より高い傾向を示した項目

【小中学校共通】

- ◆これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか
- ◆地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか(習い事は除く)
- ◆地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか
- ◆授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか
- ◆授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
- ◆先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか
- ◆授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか
- ◆総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか
- ◆国語の勉強は得意ですか
- ◆国語の勉強は好きですか
- ◆国語の授業の内容はよく分かりますか
- ◆国語の授業で、先生は、あなたのよいところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか

【小学校のみ】

- ◆人が困っているときは、進んで助けていますか
- ◆人の役に立つ人間になりたいと思いますか
- ◆自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか
- ◆分からぬことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか
- ◆5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか
- ◆5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか
- ◆学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができていますか
- ◆授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか
- ◆算数の勉強は好きですか

【中学校のみ】

- ◆自分には、よいところがあると思いますか
- ◆先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
- ◆あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか

8. 調査結果における課題と改善のポイント

【課題】様々な情報を整理・統合し、自分の考えを根拠に基づいて記述する力

学校での取組(全教科等の授業を中心に)

◆児童生徒が互いに意見を交わし、自ら問いを立てて考える「対話的な学び」を重視する授業を充実させます。

- 具 体 例
- ・一人一台端末とクラウド環境による同時編集や相互参照等を有効活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図る。
 - ・単元のゴールや学習計画を、教師と子どもで共有・調整する。
 - ・近くの席やグループ内等で、自分の考えを発表し、互いに質問し合わせる。
 - ・自分の考えを述べるだけでなく、「なぜそう思うか?」や「文章・資料等のどこに書いてあるのか?」を問い合わせ、根拠となる部分を明確にさせる。
 - ・書くことの条件(字数・時間・学習用語)を設定するなど、多様な書く場面を設定する。
 - ・目的に応じて文章を繰り返し読んだり、足りない情報を補ったりしながら読ませる。
 - ・話し方、聞き方、読み方、書き方等について、系統性のある指導を学校全体で行う。

【課題】筋道を立ててグラフや表を読み解いたり、数や図形を用いて論理的に説明したりする力

学校での取組(算数・数学の授業を中心に)

◆答えが合っているかどうかだけでなく、「どうやってその答えにたどり着いたのか」という思考のプロセスを重視する授業を充実させます。

- 具 体 例
- ・「この問題は何を尋ねているのか?」「解くために必要な情報は何だろう?」といった思考の過程を言語化させる。
 - ・自分の考えを表現する際、「～なので～と言える」といった因果関係を明確にする言葉を使わせる。
 - ・データや事象をグラフや表に変換し、そこから読み取れる情報を自分の言葉で発表する活動を適切に設定する。

【課題】自己肯定感と大人への相談

学校での取組

◆児童生徒のよいところが発揮されたり伸びたりする機会を適切に設定し、その行動を具体的に認め価値付けすることを充実させます。

- 具 体 例
- ・児童生徒と関わる際、困りごとや不安を抱えたときに、いつでも相談できる関係性構築を重視する。
 - ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等との連携し、心理的な支援を必要とする児童生徒への専門的なサポートを行う。
 - ・児童生徒の自治的・自主的活動の活性化を図り、児童・生徒会活動や学級での係活動も含めて、一人一人が役割を担い責任感や達成感を味わえる機会を適切に設定する。
 - ・普段の授業や学校行事等の特別活動において、周囲との関わりの中で「できた」という達成感や満足感、「わかった」という嬉しさや楽しさを味わわせる指導の工夫を図る。

家庭での取組

- ◆学校での出来事について話を聞く時間を作りましょう。
- ◆励ましやほめることを大切にしましょう。
- ◆お子さんが何かに挑戦した時には、結果ではなく、行動したことやプロセスをほめてあげましょう。

【ウェルビーイングとは】

- 身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。
- 多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む概念。

【日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上】

- 日本の社会・文化的背景を踏まえ、我が国においては、自己肯定感や自己実現などの獲得的な要素と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの協調的な要素を調和的・一体的に育み、日本社会に根差した「調和と協調」に基づくウェルビーイングを教育を通じて向上させていくことが求められている。

【課題】読書習慣

学校での取組

- ◆児童生徒が自分で本を選んだり、読んだりするきっかけづくりを充実させます。

具
体
例

- ・ブックトーク等を積極的に行い、新しい本や教科書の教材と関連した本を紹介する。
- ・新刊や季節ごとのテーマ等に沿った本の展示を行う。
- ・読んだ本の記録等を共有し、互いに読書意欲を高め合わせる。
- ・お気に入りの本を紹介する活動等を行い、読書の楽しさを分かち合う場を設ける。
- ・各学校の実態に応じて、読書の時間を適切に設定する。
- ・学校図書館の活用の仕方についての計画的な指導の充実を図る。

家庭での取組

- ◆本がお子さんの手の届くところにある環境を整え、読書を余暇の過ごし方の一つにしましょう。
- ◆テレビやゲームを消し、毎日 10~15 分、家族でそれぞれ本を読む時間を作りましょう。
- ◆お子さんが好きなジャンルやテーマを尊重して、「まずは本を読む楽しさ」を味わわせましょう。

【課題】家庭での学びと望ましい生活習慣

学校での取組

- ◆家庭での学習方法等について具体例を挙げながら教えることで、主体的に家庭学習に取り組めるようになります。
- ◆家庭学習の出し方について教職員で共通理解を図るとともに、家庭学習の方法等について具体的な例を挙げながら指導を行います。

家庭での取組

- ◆宿題の時間を決めたり、学習予定をカレンダーに書き出したりして、達成感を味わわせましょう。
- ◆家庭学習は、【小学校】学年 × 10 分 + 10 分、【中学校】学年 × 1 時間 + 10 分を目標に取り組みましょう。
- ◆テレビ、動画の視聴時間、ゲームの時間を少なくしましょう。
- ◆スマートフォン、SNS、インターネット等は、使用できる時間等のきまりを設けましょう。
- ◆寝る前にスマートフォンやゲームの利用を控えるなど、良質な睡眠を確保するためのルールを家族で決め、一緒に守りましょう。
- ◆家の中に、勉強ができる環境をつくりましょう。
- ◆親子で体を動かす：公園で遊ぶ、近所を散歩するなど、日常で一緒に体を動かす時間を作りましょう。
- ◆起床時刻、就寝時刻が不規則にならないようにしましょう。
- ◆地域の行事へ参加させたり、図書館、社会教育施設を積極的に活用させたり、網走のよさにふれる時間を作りましょう。

9. 網走市教育委員会における学力向上の方策

この方策は、これまで網走市教育委員会が取り組んできたものをさらに推進・拡充させていくものと、新たに取り組むものです。

1 教員の指導力を高めるために、研修の充実を図ります。

- (1) 中学校区連携による教職員研修の推進、「学び EXPO in 網走」の開催や学力向上等の先進地域への視察研修など、網走市総合学校力向上推進委員会の活動を支援するとともに、網走市教育委員会主催の研修会を開催し、教職員の指導力向上を図ります。
- (2) 北海道立教育研究所や網走地方教育研修センター等の受講促進、先進地視察研修、公開研究会への参加、オホーツク管内教育研究団体への加入の促進を図ります。
- (3) 市内の学校で公開研究会を実施するとともに、網走市学校教育研究実践事業により公開研究会の開催を支援します。
- (4) 授業力向上のため、北海道教育委員会の専門的教育職員による学校教育指導を複数回要請し、授業改善や研究協議の充実を図ります。
- (5) 読書指導や家庭学習習慣の定着に成果を上げている学校の取組を網走市総合学校力向上推進委員会の中で共有し、各学校における具体的な取組の改善を図ります。

2 子どもの学びを支える教育環境の整備を図ります。

- (1) 学習内容をより分かりやすく伝えるための ICT 機器（電子黒板、1人1台端末、デジタル教科書等）を整備するとともに、ICT 機器の活用に関わる研修会を開催します。
- (2) 学校図書館司書の配置や学校図書の整備など、読書環境の改善や、学校図書館機能の充実を図ります。
- (3) 海外からの英語指導助手（ALT）を複数配置し、小学校段階からの外国語教育、国際理解教育の充実を図ります。

3 子どもたちに自ら学ぶ意欲を育み、確かな学力の定着を図ります。

- (1) 学習内容の定着を図るため、長期休業中や放課後の補充学習の充実、少人数指導や習熟度別学習、学習支援員の配置などによる、きめ細かな学習を推進します。
- (2) 児童生徒一人一人の理解を深めるため、学力状況を把握する標準学力検査や、学校での適応感を把握する検査の活用を促進します。
- (3) 学び方に関する全校共通指導事項の取組を推進し、学習規律の定着を図ります。
- (4) 家庭での学習習慣確立のために、学校・家庭・地域が連携し、家庭学習の習慣化やテレビ・動画視聴、ゲームの時間の見直しなどを図ります。
- (5) 小・中学校において、「15歳で育つ姿」「9年間で身に付ける力」を共有するなど、中学校校区を中心とした小中連携を推進します。
- (6) 東京農業大学や市内高等学校と連携し、土曜日や長期休業中、放課後での学習機会の創出・支援を行います。

4 特別支援教育の充実を図ります。

- (1) 特別支援教育支援員などの人的支援の充実や関係機関との連携を図ります。
- (2) 教職員や保護者の特別支援に対する理解を深めるため、研修会の実施、教育相談体制の充実を図ります。

5 健やかな学びを支えるために、体力向上の取組を推進します。

- (1) 心身ともに健康な子どもを育成するために、保護者、地域とともに、「早寝・早起き・朝ごはん」など望ましい生活習慣の定着、運動に慣れ親しむ機会を作るなど体力向上の取組を推進します。
- (2) スポーツ合宿団体によるタグラグビー教室など、スポーツ教室を積極的に開催します。また、教育長杯タグラグビー大会や、オホーツク網走マラソンなどの各種スポーツ大会への参加促進を図ります。
- (3) 1時間の授業の中でできるだけ運動する時間を確保したり、互いに教え合う活動を取り入れたりするなど、楽しく達成感が味わえる体育の授業の充実を図ります。
- (4) 日本体育大学との連携による、「子ども体力づくりサポート」や「体育授業改善研修会」を実施します。

6 思いやを大切にし、豊かな心や地域を愛する心を育みます。

- (1) 学校における地域・保護者への積極的な道徳の授業公開や教育講演会の開催など、豊かな心を育成する教育の充実を図ります。
- (2) 「網走市子ども会議」を開催し、誰もが楽しいと思える学校づくりに児童生徒が主体的に取り組もうとする活動の充実を図ります。
- (3) 地域に対する愛着や関心を高めるために、地域を素材とした総合的な学習の時間、ふるさと教育、食育などの充実を図ります。
- (4) 学校での朝読書や家読（うちどく）の充実、読み聞かせなどによる良書との出会い、市立図書館による「読書ノート」の積極的な活用により読書の充実を図ります。

7 地域、保護者との連携を図り、地域とともにある学校づくりを推進します。

- (1) 学校と家庭、地域住民等が「地域でどのような子どもたちを育てるのか」、「何を実現していくのか」という目標やビジョン共有しながら、特色ある学校づくりを進めていくために、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を推進します。
- (2) 地域、保護者とともにある学校を目指し、「オープンスクール」の実施や「網走市学校支援地域本部事業」によるボランティアの活用など、地域、保護者との連携を図ります。
- (3) 小・中学生と地域の高校、大学との交流を推進し、児童生徒が新たな興味や関心を引き出す様々な体験学習等の充実を図ります。
- (4) 心身ともに健やかな児童生徒を育成するために、網走市PTA連合会と連携し、教育講演会、研修会を開催します。
- (5) ネットトラブルの未然防止を図るために学習会を開催したり、使用のきまりを作成したりするなど、学校と保護者が連携した取組を推進します。